

桐光会へのお礼メッセージ(2014年度第2期)

#1

この度は、桐光会奨学生を認めていただき、ありがとうございます。

十三年前に父がくも膜下出血で倒れてから自宅での介護を母が行っていたために収入が少なく他の奨学金で学費を賄っていました。私自身も勉学に励むために派遣アルバイトをしていたために学費を賄う余裕もなかったため桐光会奨学生に採用していただいたこと、大変感謝しております。

学生生活も残り一年もなくなってしまうりましたが、社会福祉士の国家試験、卒業論文、就職活動、また勉学に励んで参ります。本当にありがとうございました。

人間学部人間福祉学科奨学生本人

#2

今回は、春学期の学費を給付して頂き、本当にありがとうございました。また、この制度を作って頂きありがとうございます。本当に助かりました。桐光会奨学金は、他の奨学金と違い、無利子で返さなくても良いというのを聞いた時は、すごく驚きました。私は、親から学納金が払えないと聞いた時、頭が真っ白になり、これからどうしようと考え、今まで1年間頑張ってきた事や授業や部活が出来なくなってしまうかもしれないと思いました。けれど、先生や学生支援センターの方々のお話を聞き、まだ諦めずに頑張ろうと思い、桐光会の奨学金を受けました。もし、給付して頂けなかったら、今どうしていたのか、わからないです。本当にありがとうございました。しっかり授業を受けて、卒業、就職できるよう頑張ります。

短期大学部製菓学科奨学生本人

#3

この度は、桐光会奨学生に採用して頂きまして、誠にありがとうございます。御陰様で、学業・就職活動に専念することができます。私の家庭は父子家庭で、父は数年前、精神疾患を患い休職しました。その後、復職しましたが、減給などの影響もあり、経済的に困窮している中で、大学に入学致しました。大学では、学業をはじめ、学内活動、アルバイトなど全力で学生生活を過ごして参りましたが、経済的に苦しい状況を変えることができませんでした。そのような中で、今回、奨学生に採用して頂き、学納金を納める事ができました。これからも、目白大学で学べる事、嬉しく思い、心から感謝しております。残りの学生生活も、桐光会奨学生の名に恥じぬよう一層の努力をする所存です。桐光会の皆様、そして、手続きの際に、親身に相談に乗って頂いた職員の皆様、心から御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

社会学部地域社会学科奨学生本人

#4

この度は桐光会奨学生として採用していただきまして誠にありがとうございます。

梅雨に入りうっとうしい時期ではありますが、就職活動も真っ盛りで、公務員志望の私は最後の追い込みに入っています。このような時期に奨学生採用のお知らせをいただいたことで今後は安心して就活に没頭できます。大変ありがたいところです。

また、何よりも最後まで学生生活を全うできることは今後の自己実現の重要なステップを維持できたとも考えております。桐光会と本学にご恩をいただいたことは何らかの形でお返しができるように今後も精進していくつもりです。本当に助かりました。繰り返しになりますが、ありがとうございました。

経営学部経営学科奨学生本人

#5

この度は桐光会奨学生に採用して頂き誠に有難うございます。入学して早々父が倒れ介護状態となり弟が大学進学を控えている中、今年2月に亡くなりました。母も私もアルバイトをして生計を立てていますが、経済的に余裕は無く、体力的にも精神的にも辛い日々を過ごしておりました。桐光会の援助をして頂いた事により安心して残された短大生活を送れます。皆々様、本当に有難うございました。

短期大学部生活科学科奨学生本人